

令和3年3月10日

保護者の皆さま

枚方市立中宮中学校
校長 町田 弘明

令和2年度学校評価について

1. 学校教育目標

<p>—ともに学びともに育つ— 「命」・「学び」・「感性」</p> <p>すべての生徒が、社会の中で他者と支え合い自立できるよう、生きる力を育成する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自他の命と人権を大切に作る心と豊かな感性を育む。 ・他者とつながり、理解し合い、支え合うことの出来るコミュニケーション力を養う。 <p>《めざす学校像》 《めざす生徒像》 《めざす教職員像》</p> <p>力のある学校 社会の中で生きる力のある生徒 力量のある教職員</p>		
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--	--

2. 学校経営方針

<p>●教育の目的、地域の学校の役割を達成し、生徒・保護者から信頼される学校を実現する。</p> <p>1. 組織的な学校運営の継続・発展 2. 社会の中で他者と支え合い自立する力の育成</p> <p>3. 学習指導の充実 4. 生徒指導の充実 5. 小中一貫教育の推進、充実</p>

3. 本年度の取組内容及び自己評価

基本 方策	項 目	・本年度の重点目標	○具体的な取組内容 (◆活動指標・成果指標)	□取組内容の自己評価 ◆今年度の肯定的回答% (昨年%)
確 かな 学 び と 自 立 の 力 を 育 む 教 育 の 充 実	教 育 課 程 ・ 学 習 指 導 ・ キ ャ リ ア 教 育	学力向上 (学力保障)	<p>①中宮中授業スタイルに基づいた授業を展開し、基本的な知識技能の習得、思考力・判断力・表現力と主体的に学習に取り組む態度の育成を図る。 《めあて→本時の授業の確認→個人で考える時間→班等で考える時間→書く活動の時間→発表する時間→振り返り》</p> <p>②「主体的・対話的で深い学び」の授業を実現し、学力(学ぶ力)を向上させる。</p> <p>③トライジャパニーズ・週末宿題 単元テスト・小テスト、補充学習等、実情を踏まえた学力保障に、組織的に取り組む。</p> <p>④障害のある生徒には、個別の指導計画・教育支援計画をもとに、指導方法の研究を深め、生徒や保護者の意向を受け、十分な配慮のもとに支援に取り組む。</p>	<p>○中宮中授業スタイルの授業づくりに取り組みましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のための臨時休校等による授業数の不足、授業の遅れを取り戻すため、授業スタイルが後退してしまう面がありました。②感染防止のために学習班単位のグループ学習が大きく制限され、「対話的な授業」づくりをどう進めるかが大きな課題です。ペア学習、近くの席の友だちとの意見交流を取り入れる授業や、全員配布されたタブレットを活用した対話的な授業に取り組んでいます。</p> <p>○組織的に学力保障に取り組みましたが、基礎学力の定着は未達成です。より効果的な方法にシフトし、家庭と連携して家庭学習習慣を定着させることが課題です。</p> <p>○全教職員が連携して障害がある生徒の支援に取り組んでいます。教室の椅子の足にテニスボールをつけ静かな環境を整える教室のユニバーサルデザイン化をしています。</p> <p>○2年生の職場体験、1年生の職業講話が中止になる中、コロナ禍の下でのキャリア学習に取り組みました。引き続きキャリア教育の視点から学校の取組みを充実させていきます。</p> <p>○生徒と繰り返し教育相談を行い、一人ひとりの思いを大切にされた進路指導に取り組みました。様々な事情の中、希望する進路の実現の支援に取り組ましました。</p> <p>◆授業をわかりやすいように工夫した先生が多い 93.5 (97)</p> <p>◆授業で友だちと話し合う活動が良く行われている 98.3 (100)</p>
		社会の中で他者と支え合い自立する力の育成	<p>①社会のなかで自立できる生徒を育てるため、キャリアパスポートを作成・活用して義務教育9年間を見据えたキャリア教育の充実に努める。</p> <p>②一人ひとりの生き方、人権に十分配慮した進路指導を行い、すべての生徒が希望する進路を実現できるように取り組む。</p> <p>◆学力・学習状況に関する諸調査の結果の改善</p> <p>◆授業力アンケートや学校教育自己診断などの生徒アンケート肯定的回答評価向上</p>	

				<p>◆自分の考えを発表する機会が与えられている 96.0 (99)</p> <p>◆家で学校の授業の予習や復習をしている 65.4(62)</p> <p>◆家で自主的に計画をたてて勉強している 56.9(60)</p> <p>◆学校以外の学習時間 1 時間未満 45.2</p> <p>◆将来の進路や生き方について学んだり考えたりする機会が多い 83.6 (89)</p>
豊かな心と健やかな体を育む教育の充実	支援教育・人権教育の充実	生徒指導の充実	<p>①「ともに学びともに育つ」教育を推進する。</p> <p>②身近な人権課題を解決することから、知識の理解だけでなく豊かな人権意識を育み、行動できる生徒の育成を図る。</p> <p>③同和教育、在日外国人教育、国際理解教育、障がい者理解教育、男女共生教育、性的多様性に関する教育、人種差別問題や平和学習等に取り組む。</p> <p>④教育活動、指導の在り方について人権教育の視点から検討、改善に取り組む。</p>	<p>○部落問題学習など様々な人権課題について学習する機会を設け、生徒が生き方を考える事ができるように取り組みました。しかし、学年、学級の友人との関りを豊かにし、身の回りのいじめや差別を見抜き、許さない行動ができるところまで、人権教育や「ともに学びともに育つ」教育を充実させる必要があります。</p> <p>◆命の大切さや、人権について学んだり考えたりする機会が多い。96.2 (96)</p> <p>○生徒たちの活発な委員会活動も定着し、学校は全体として落ち着いた状況です。しかし、授業によっては落ち着かなくなる場面があるなど、教員も組織的な対応を進め、授業などの指導力を向上する必要があります。</p> <p>○生活アンケートやQ-Uテスト、教育相談活動に取り組んでいますが、なにより日頃の生活の中で確かな人権意識をもって、子どもたちの変化を感じ取る教師力を高めていきます。</p> <p>○遊びやふざけ合いの中に紛れ込む「いじめ」が起きました。家庭での虐待が疑われる事案も依然としてあります。事案発生に気付けるよう、引き続き教職員の感度を高め、迅速、適切な対応で子どもを守り抜ける組織を整えていきます。</p> <p>◆落ち着いた雰囲気の中で授業を受けることができている 71.1 (76)</p> <p>◆先生は困っているときにいつでも相談に乗ってくれる 94.8 (97)</p> <p>◆学校に行くのが楽しい 90.8(89)</p> <p>◆生徒会行事や委員会活動、クラブ活動に積極的に参加している 94.5(93)</p> <p>○学年の教師が授業をする「ローテーション道徳」に取り組んでいます。外部講師を招聘した「考え議論する道徳」研修で授業力向上に取り組めました。</p> <p>○コロナ感染症予防については学校再開時の学習のあとも、保健だより等を通じて繰り返し学ぶ機会を設けてきました。PTA から提供していただいた加湿器が、生徒たちの感染予防に取組む意識にも大きな効果を上げています。保健師による命の学習はできませんでした。</p> <p>◆命の大切さや、人権について学んだり考えたりする機会が多い。96.2 (96)</p>
		道徳教育の充実	<p>①教職員が一体となり組織的に取組む生徒指導体制により、規律ある学校を実現する。</p> <p>②学級、学年集団づくりを生徒指導の土台に据え、自治・自律力のある生徒を育てる。</p> <p>③基本的生活習慣、生活規律、学習規律を確立させる。</p> <p>④日常の見守り、教育相談活動の充実や生活アンケート、Q-Uテストの取組みなどにより、生徒の思い、困り感に寄り添う指導を充実させる。</p> <p>⑤いじめ・不登校・虐待に対する教職員の意識と指導力を高め、未然防止と的確な初期対応、問題解決に組織的に取り組む。</p> <p>⑥外部機関と的確な連携で、効果的な生徒支援に取り組む。</p>	
		健やかな体と心を育む教育	<p>①読み物教材を使った授業を中心に、問題解決的な学習や体験的な学習を適切に取り入れ、学校の教育活動全体を通じて、道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度を育成する。</p> <p>①生徒の実態を踏まえ、生徒の体力向上や保健教育、命の教育に組織的に取り組む。</p> <p>②コロナウイルス感染症と感染予防の正しい知識を獲得させ、偏見や差別なく適切に行動できる力を身につけさせる。</p> <p>◆学校教育自己診断などのアンケート結果や生徒の生活に関わる指標の改善につなげる。</p>	

<p>教職員の資質と指導力の向上</p>	<p>研修・学校評価</p>	<p>教職員研修の充実</p>	<p>①単元計画、めあての提示など指導と評価の一体化を図り、効果ある評価システムを確立する ②学力向上担当者を中心に校内研修、学年及び教科の研究授業など組織的な「主体的・対話的で、深い学び」の授業づくりをすすめる。 ③学力向上委員会を定例的開催し、生徒の実情を踏まえた学力向上策を検討、実践する。 ④生徒指導主事を中心に学級づくり、生徒指導の実践交流、研修に取組み指導力の向上を図る。 ⑤課題を踏まえた人権研修を実施し、人権教育を充実させる。 ⑥ローテーション道德を活用した道德の指導力の向上と評価の充実・改善に取組む。 ⑦「めざす生徒像」「生徒に身につけさせる力」を共有し、PDCAサイクルを生かして学校全体のカリキュラムマネジメントに取組む。</p> <p>◆自己診断アンケートの肯定的回答率の改善につなげる。 (教員・生徒・保護者)</p>	<p>○学力向上担当加配教員が中心となり、学習部、学力向上委員会、そして教科部会での授業研究と校内研修によって、中宮中スタンダードの授業づくりと言語活動の充実に取組みました。教科や学年、グループ単位など様々な形で実施した研究授業での具体的な意見交流が、日ごろの授業づくりの充実に繋がっています。 ○年度のスタートにあたって、生徒指導の具体的な対応についてのマニュアルや校内ルポに関する対応などを確認する研修を行い、毎週の生徒指導部会で担当者の足並みをそろえることで組織的な生徒指導体制を構築することができています。 ○多文化のつどいに関わってくださっている金先生を講師に招いた研修や、ビデオを使った部落問題学習研修を行いました。 ○道德の授業力向上に向け、関西外大の太田先生を講師に招いて校内研修を実施しました。 ○選挙権を持つ「18歳の時の中宮中生」の姿をイメージして「中宮中生につけさせたい力」を共有する時間を持ちました。来年度からの新要領全面实施も念頭において具体的なカリキュラム作りを取組んでいます。 ◆先生は生徒の意見や考えを大切にしてくれる 95.5(97) ◆先生は困った時にいつでも相談に乗ってくれる 94.8(97)</p>
<p>学びのセーフティネットの構築</p>	<p>教育課程・情報提供・保護者</p>	<p>小中連携の充実</p> <p>危機管理</p>	<p>①義務教育9年間の学びを見据え、育てる児童・生徒像を共有して系統的な校区小中一貫教育を取組む。 ②推進委員会、生徒指導部会、事務部会などで校区小中学校の教員の顔が見える交流、情報共有を実現する。</p> <p>①新型コロナウイルス感染対策に組織的に取組み、生徒の命と安全を守る ②防災教育や、メディアリテラシー教育を充実させるとともに、保護者・地域への情報発信により、子どもを育てるネットワークを構築する。</p>	<p>○推進委員会で育てる子ども像を共有し、校区一貫教育の方向を確認しましたが、その後新型コロナウイルスの感染拡大で取組は縮小しています。小学生の中学校訪問は、初めての試みとしてオンラインで実施します。 ○校区の事務職員は中学校の主査が中心となって校区小学校を兼務し、学校事務の共同実施に取組んでいます。オンラインによる会議も行い、事務の適正化とスキルアップに取組むことができました。 ○登校時の健康観察や検温の徹底、マスク着用指導や換気、下校後の消毒など新型コロナウイルス感染防止に継続的、組織的に取り組んでいます。 ○臨時休校を機にインターネットに接する機会が増えていることから、夏休み明けすぐに篠原嘉一先生を招いてスマホ講習会を実施、メディアリテラシー向上に取組みました。ネット依存やスマホトラブル防止に向け学校での学習だけでなく、保護者との連携が必要です。</p>

地域住民との連携	家庭・地域との連携の推進・充実	<p>①PTA、地域教育協議会やコミュニティなどの地域団体との情報交換、共同の取組みに積極的に参画し、地域の学校としての役割を果たす。</p> <p>②学校便りや学年通信などの発行物、HPなどの情報発信により、学校の取組みについての理解促進に取組む。</p> <p>◆学校教育自己診断アンケートの肯定的評価を高める。</p> <p>◆小中校区一貫の取組みを充実させる。</p>	<p>◆子どもの携帯・スマートフォンの使い方、使用時間等については安心できる状態である 57.6(75)</p> <p>○コロナ禍で活動が縮小された中、担当の方たちの協力を得てPTAや地域協との連携を継続しています。学校行事においては、PTAの協力を得て感染防止を徹底することができ、保護者の参観も実現できました。</p> <p>○学校の取組みを知っていただくために学校便りなどの発行物に加えて、ホームページを使った情報発信にも取り組んでいます。</p> <p>◆学校は、ホームページ・学級通信・学年通信・進路通信・校長通信などで、家庭との連携、適切な情報提供、意思の疎通をきめ細かく行っている 81.3(78)</p>
----------	-----------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

4. 次年度に向けて

項目	・内容	○改善方策
教育課程・学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の取組みが今後も求められる中、生徒の安全と健康を守りながら、学習指導要領の全面实施とGIGAスクールの実現を達成し、すべての生徒に確かな学びを保障することが求められている。 ・これまでの取組みを土台に、ICTを生かした授業づくりを中心に家庭学習を含めた効果的で、持続可能な教育課程が求められている。 ・中学校卒業段階の進路先確保にとどまるのではなく、卒業後に自立して生きていける力、中宮中生の生徒たちが成人する18歳の時に責任を持つ教育が求められている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○目指す生徒像「自分と社会を結び付けて考え、行動することができる生徒」の育成を意識し、キャリア教育、総合的な学習を柱とした教育課程の見直しを進めます。 ○「考える力」「言語力」「コミュニケーション力」を育てる授業、生徒指導を推進します。 ○ICTを効果的に活用し、学び方をはぐくむ授業づくりと主体的家庭学習習慣の育成に取組みます。
研修	<ul style="list-style-type: none"> ・全面实施された新学習指導要領の内容を踏まえた学習指導と評価が、適切に行えるように継続した授業研究が求められている。 ・ICTの可能性を最大限に生かし、生徒の学力とメディア活用スキルをはぐくむ指導力が求められている。 ・インターネットの普及や社会のグローバル化の進展、新型コロナウイルス感染拡大、いじめ、不登校、学習障害、性の多様化、格差の拡大などの社会の変化の中で、生徒に豊かな人権意識を育むことができるよう、教師の人権意識、知識、スキルがこれまで以上に求められている。 ・新たな課題が増える中、教職員の多忙化、長時間勤務、メンタルヘルスの危機に対応することが喫緊の課題となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○指導と評価の一体化を意識した「課題」や生徒の主体的な学びにつながる「単元計画」に焦点を当てた授業づくり研修に取組みます。 ○教職員が指導に生かせるタブレット活用研修に取組みます。 ○生徒や社会の実態を踏まえた校内研修や特別活動、総合的な学習の充実に向けた課題研究研修を充実させます。 ○ICTを生かした業務の効率化と合わせて教育課程全体の見直しを進め、生徒と向き合う時間を確保しつつ、教職員の働き方改革をすすめます。

<p>保護者地域住民との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染防止や熱中症予防、ネットに関わる危険、防災など学校と保護者、地域が連携して子ども守り、育む取組がこれまで以上に必要になっている。 ・家庭学習習慣の育成や自立する力を育むキャリア教育の充実には、小中9年間の学びを充実させることや、保護者や地域の理解と協力が必要になっている。 ・学校と保護者、地域との連携や、学校の教育活動に対する保護者、地域の理解と協力には「開かれた学校づくり」が必要である。 ・コロナ禍の中、ネットトラブルやネット依存から子どもを守るために、家庭との連携強化のために効果的な発信や研修の機会が、これまで以上に必要である。 ・地域の学校としての責任を果たすための学校の取組について、保護者や地域の理解と協力が不可欠である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校便りやホームページ、学年だよりや学級通信に加えて、生徒指導、保健指導やカウンセリングルームなどからの情報発信を充実させて、学校の取組み、教職員や生徒の様子を保護者や地域に伝え、理解と協力を求めます。 ○校区小中一貫教育の充実と保護者や地域との連携の充実に取組みます。 ○新型コロナウイルス禍の中で可能な「開かれた学校づくり」を検討して、実行します。 ○PTAと連携してネットに関わる学習の機会を持ち、生徒とも意見交換し、具体的なネットルール作りを取組みます。 ○コロナ対策や働き方改革をなどの学校の取組について、保護者・地域の理解と協力を得られるよう、積極的な情報発信を取組みます。
--------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

学校評議員及び学校協議会（紙面での開催）においていただいたご意見、ご助言を踏まえて上記のように今年度の学校評価を行い、令和3年度の学校運営の充実に取り組んでまいります。

以上、報告させていただきます。